

2017年7月11日

事前防災・減災対策推進展へ出展します

青木あすなろ建設株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：上野康信）は、事前防災・減災に関する製品・技術・サービス、先進的な取組みを一堂に紹介する「事前防災・減災対策推進展」へ出展いたします。

本展示会は、8つの専門展示会が同時に開催される『メンテナンス・レジリエンス TOKYO2017』のひとつで、災害への備えや災害に遭遇した場合の早期復旧への対策を紹介するものです。なお、当社の出展内容は以下のとおりです。

出展内容 : ①摩擦ダンパーを用いた橋梁耐震工法

②無人化施工

③水陸両用ブルドーザ工法

④オーリス（非破壊調査システム）

※1 出展する工法の詳細は次ページに記載のとおりです。

※2 出展ブース番号は「2G-09」です。

< 事前防災・減災対策推進展 概要 >

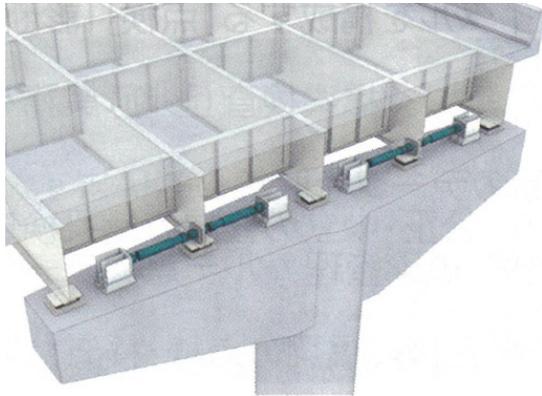
開催日時 : 2017年7月19日（水）～21日（金）

開催会場 : 東京ビックサイト（東1・2・3ホール）

主催者 : 一般社団法人日本能率協会 主催

公式HP : <https://www.jma.or.jp/mente/outline/disaster.html>

※ 1 工法詳細

<p>①摩擦ダンパーを用いた橋梁耐震工法</p>	<p>出展内容</p>
	<p>当社独自の「ダイス・ロッド式摩擦ダンパー」を用いて、既設橋梁の耐震性を向上させる技術です。</p> <p>近年、地震直後における公共インフラの機能維持が課題となっています。当社は、既設橋梁の支承部に「ダイス・ロッド式摩擦ダンパー」を設置することで耐震性能を向上させ、地震直後も交通機能を維持できる耐震補強工法を、首都高速道路㈱と共同開発しました。</p>
<p>②無人化施工</p>	<p>出展内容</p>
	<p>建設機械作業を無線遠隔操作によって施工する技術です。</p> <p>人が立入ることができない危険地域の施工で採用され、情報化施工技術の発展により、数十kmの超長距離無人化施工も可能です。これまでに雲仙普賢岳、桜島、樽前山を初め全国 70 件以上の実績があります。</p>
<p>③水陸両用ブルドーザ工法</p>	<p>出展内容</p>
	<p>陸上機械や作業船では施工困難な浅水域を作業領域とし、省資源化、省人化を可能とする無線遠隔操縦式水中機械工法</p> <p>昭和 46 年以來 1200 件以上の実績を積み重ねてきた当社独自の工法です。養浜・離岸堤工事等の海岸工事、漁港等の維持浚渫工事、治水としての河道掘削、河川改修工事、あるいは災害復旧工事にも使用され、東日本大震災復興現場でも活躍しています。</p>

④オーリス（非破壊調査システム）	出展内容
 A photograph of the AURIS M non-destructive testing system. It consists of a white rectangular control unit with a black screen and several buttons. A black cable connects it to a smaller, silver-colored rectangular probe unit. A black handle with a silver metal tip is also visible, connected to the probe unit.	<p>構造物の形状寸法や内部に生じた亀裂を簡便に検知できる非破壊調査システムです。</p> <p>可搬性に優れた調査機器を用いて、コンクリート構造物や基礎杭などに発生したひび割れの有無、岩盤や転石の亀裂や根入れの調査が行えます。構造物の維持管理のための点検・診断技術として調査実績が増えています。</p>

以上